

石狩地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

大学生時代に農家でアルバイトを行った際に、農業の楽しさに触れたことから、将来的には農業をやりたいと考えようになりました。大学卒業後はJAに勤めましたが、自身で農業に挑戦したいという思いが強くなり、道央農業振興公社の新規就農者募集に応募しました。そこで3年間、理論や実践の研修を経て就農しました。

【就農して苦労したこと】

土質や使用する機械が研修時と違い、一から機械の操作方法を覚え、作物の生長具合にも気を付けなければならなかったことです。また農業は収益に還元できるまでに時間がかかり、特に就農して間もない4月～6月は支出ばかりが多くて不安になりました。

2年目からは年間を通した作業の全体像を把握して営農できたので、気持ち的にも余裕を持つことができました。

しみずファーム（恵庭市）

清水 成洋 さん

就農年：2020年4月

経営形態：園芸野菜・露地野菜

作物：ブロッコリー、かぼちゃ、

ミニトマト、サツマイモ

「しみずファーム」Instagramはこちら→

2025年6月取材



@SHIMIZU_FARM169

【恵庭市で就農した理由】

道央農業振興公社からの紹介で恵庭市を選択しました。自己資金や婚姻の有無、栽培作物の制約が他地区より緩和されていたことが決め手です。実際に就農してみると恵庭市は平坦な土地が続く、農業に適していると思いました。特に自分が継承した農地は水路も近く、非常に恵まれた環境だと感じています。

【栽培について】

ブロッコリー、かぼちゃ、ミニトマト、さつまいもを栽培しており、ブロッコリーは主力作物になっています。

就農当初は4.2haから営農を始め、2025年には8haまで拡大しました。経営的にも安定してきており、今年は自宅の建て替えも行いました。

園芸用のビニールハウスはJAの事業を活用して新品2棟、中古品2棟の計4棟を購入し、妻と二人で自力で組み立てました。当時は二人とも毎日筋肉痛になっていました。

【育苗中のブロッコリー】



栽培作物は自身で育苗しており、生長度合いで定植する時期を分けるよう管理されています。

【地域との関わり】

町内会の会計係や農事組合の組合長を務めたこともあり、排水路の草刈りや、消防団の活動など地域の取組にも参加しています。最初は参加することに気が進みませんでした、現在は他の農家との情報交換の場として重宝しており、人とのつながりが大事だと感じています。

また、新規就農者や研修生に声をかけて、定期的に自宅倉庫でバーベキューや飲み会を開催しています。就農する人の気持ちをケアできたらと思い、お互いの悩みや不安を共有し、解消できる場として、親交を深めています。

【栽培中のミニトマト】



「作物の調子が悪いと自分のメンタルも不調になってしまふ」とのこと、どの作物も丁寧に手入れがされていました。

シーズン中も定期的に半休を取るなどリフレッシュの大切さも教えていただきました。

【周囲からのサポート】

就農1年目は資金面での悩みを多く抱えた時期がありました。その際は公社やJAの職員が頻繁に自宅に訪れて声をかけてくれたり作物の様子を見てくれました。また、研修受け入れ先の親方も従業員を引き連れて草取りなどを手伝ってくれました。周囲の人たちの助けにはとても感謝しています。

妻や近隣に住む義母のサポートにも非常に助けられています。妻がいなければ自分は今、農業はできていないと思っています。

【トラクター】



トラクターは現在5台所有しており、中古品を購入して使用しています。

「古い機種はメンテナンスに費用がかかるが、新品の購入に比べれば経済的と感じる。」と語っていました。写真の青いトラクターは営農開始当初から使用しており、愛着も深いそうです。

【今後の展望】

近隣では後継者がいない農家が多数おり、今後耕作従事者が不在となる農地が多く発生すると思います。その時に自分が担い手となって農地の受け入れを行っていきたいです。

地域みなさんに自分に任せても大丈夫だと思っていただき、安心して引退できるよう、より広い面積で営農できる実力を身に付けようと日々模索しています。

【今後、就農する方々に伝えたいこと】

新規就農だと働き方や栽培方法など全部を自分で決めることができます。良くも悪くも自由度があることがやりがいに繋がっていきます。

【清水さんご家族】



【ブロッコリーのほ場】



ご家族で力を合わせて農業に取り組んでいます。お子さんはしみずファームの野菜が大好きと笑顔を見せられました。